

高齢者の個人属性別の外出の広がりに関する研究*

A study about an expanse of travel behavior according to a physical attribute of an elder*

全相俊**・吉田樹***・秋山哲男***

By Sangjoon JUN**・Itsuki YOSHIDA***・Tetsuo AKIYAMA***

1. はじめに

高齢社会の進展に伴い、日常の外出に身体的な困難を伴う移動制約者が増加していくと考えられる。こうした市民のモビリティを保障していくためには、公共交通の確保は当然でありながら、スペシャル・トランスポート・サービス（STS）が欠かせない。しかし、日本のSTSは個別輸送が基本であるうえに、NPOや一部のタクシー事業者が運行しているに過ぎず、供給量そのものが不足している。従って、STSの供給拡大と同時に、より必要とする人に対しSTSを供給することが重要である。中村ほか¹⁾は身体障害者の身体機能に着目し、STSの適用が必要な移動制約者の抽出を試みているが、そのほかの要因や個人の外出パターンなども分析する必要があると考えられる。

そこで、本研究では移動制約者の中でも特に高齢者に着目し、個人の様々な属性と外出の広がりとの関連性を明らかにする。また、様々な身体属性別に最も外出ができていない層を把握しSTSを必要とする層を明らかにする。

なお、本研究では高齢者個々の目的別外出頻度を属性別に集計した値を用いて、外出の広がりとして定義する。

2. 研究の方法

本研究では杉並区全域を対象に障害手帳や介護認定を受けた28,023人のうち、65歳以上の高齢者を対象とした1,679人にアンケート調査を行った。その調査から高齢者の外出実態や外出の目的別平均外出を求め、人々の外出の広がり进行分析した。

(1) 調査の概要

調査の概要は表1で示す。

表-1 調査の概要

* キーワード：高齢者、外出の広がり

** 学生員、首都大学東京都市環境科学研究科
(東京都八王子市南大沢1丁目1番地
TEL042-677-2360、FAX042-677-2360)

*** 正員、工博、首都大学東京都市環境科学研究科
(東京都八王子市南大沢1丁目1番地
TEL042-677-2360、FAX042-677-2360)

アンケート調査の内容	
調査地域	杉並区全域
調査期間	2006. 8. 30(水)~9. 30(土)
調査方法	郵送配布・郵送回収法
調査内容	個人属性、生活支援や社会的つながり、外出などの状況、移送サービスの利用状況等
調査対象者	65歳以上 (障害者含む) 配布:1,679票 回収:847票(回収率50.4%)

(2) 回答者の基本属性

① 性別

性別の割合は回答者844人の中で男性が320人(37.9%)、女性が524人(62.1%)で、女性の方が約24%高かった。杉並区の高齢者全体を見ると男性は39,321人(40.3%)で、女性は58,285人(59.7%)である。本調査の回答者は実際の性別より女性の回答がやや多かった。

② 年齢

年齢を表2のように3つに分けて分析を行った。結果のうち、75歳以上の後期高齢者が644人、78.2%で高い割合を占めた。これは高齢者の中でも介護認定を受けている人を対象としたためである。後期高齢者が高い割合を占めているため、後期高齢者を2つに分けて分析を行った。

表-2 回答者の年齢(N=823)

65~74歳以下	75~84歳以下	85歳以上
179人(21.8%)	377人(45.8%)	267人(32.4%)

3. 外出実態と外出の広がり

(1) 高齢者全体の外出実態と外出の広がり

① 普段の外出頻度

高齢者全体の外出頻度は図1で示したように週1日以上が583人で、72.2%を占める。

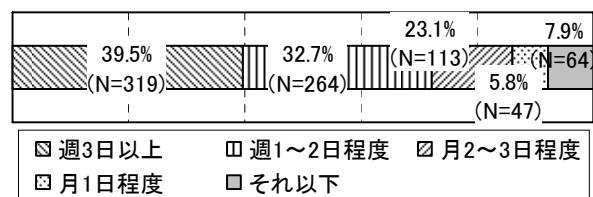


図-1 高齢者の普段の外出頻度(N=807)

② 外出の広がり

高齢者の外出の広がり进行分析するため、外出目的別に平均外出頻度を求めた。その平均外出頻度を求めるには表3に示したように5段階の外出頻度を1日あたりの外出頻度に換算した。その平均値を求めた結果、高齢者全体は0.23回/日であった。

表-3 外出頻度別換算係数(単位:回/日)

外出頻度	週3日以上	週1~2日程度	月2~3日程度	月1日程度	それ以下
平均値	3/7	1/7	2/28	1/28	10/365

外出目的別の平均外出頻度の結果は図2である。

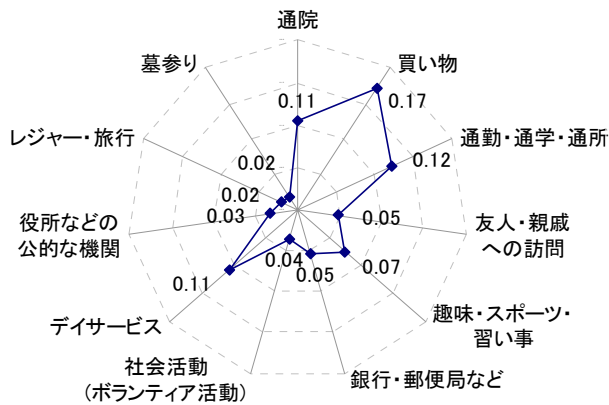


図-2 高齢者全体の目的別平均外出頻度 (単位:回/日)

図2の高齢者全体の目的別平均外出頻度を見ると、「買い物」が0.17回/日で一番高い結果であり、次は「通勤・通学・通所」、「通院・リハビリ」、「デイサービス」、「趣味・スポーツ・習い事」の順で高い結果が出た。

(2) 性別の外出実態と外出の広がり

① 普段の外出頻度

性別普段の外出頻度は図3に示した。「週1日以上」外出する人で、男性は73.8%、女性は71.2%であり、男性の方が少し高い結果であった。その平均外出頻度でも男性が0.24回/日、女性が0.22回/日であり、男性の方が高かった。また、独立性の検定では5%有意で違いがみられた。

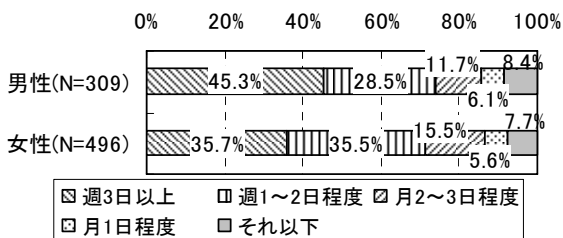


図-3 高齢者の性別普段の外出頻度

② 外出の広がり

性別の目的別平均外出頻度は男女に差は見られ

なかった。

(3) 年齢別の外出実態と外出の広がり

① 普段の外出頻度

高齢者は加齢により外出頻度がことなると考え年齢別に分析を行った。本研究では図4のとおり年齢層を3つに分けて分析を行った。その結果、年齢が高いほど外出頻度が低くなるのがわかり、独立性の検定でも1%の有意な違いがみられた。

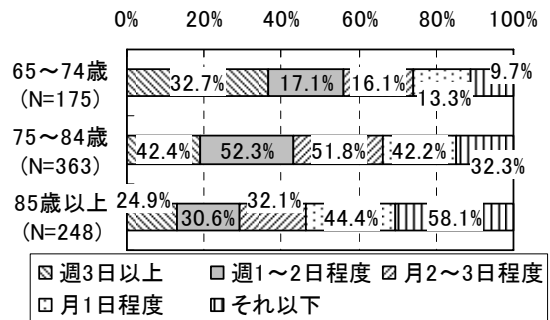


図-4 高齢者の年齢別普段の外出頻度

② 外出の広がり

目的別平均外出頻度でも特に「通院」、「買い物」、「趣味・スポーツ・習い事」で年齢が高いほど平均外出頻度が低くなった。「デイサービス」では年齢が高いほど高かった(図5)。

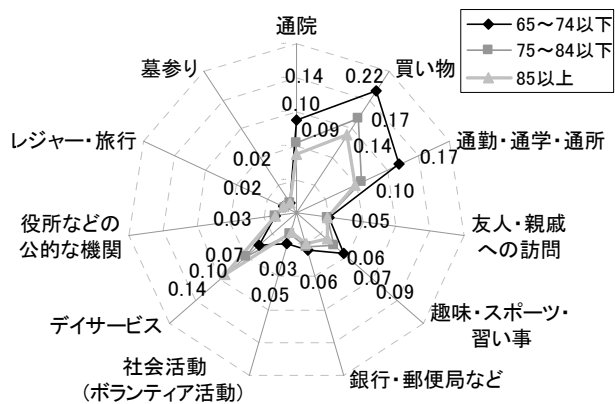


図-5 高齢者の年齢別平均外出頻度 (単位:回/日)

(4) 身体属性別外出実態と外出の広がり

高齢者は介護認定を受けている方も多く、身体属性と外出頻度は非常に関連があると考え、4つの身体属性別に分析を行った。④介護認定も受けており、障害手帳を持っている層、⑤介護認定は受けているが、障害手帳は持っていない層、⑥介護認定は受けていないが、障害手帳は持っている層、⑦介護認定も受けておらず、障害手帳も持っていない層の4つである。

4つの身体属性別の集計を示したのが表4である。

表-4 高齢者の身体属性別別集計

	障害手帳あり	障害手帳なし	合計
介護認定あり	㉔153人 (19.5%)	㉕391人 (49.7%)	544
介護認定なし	㉖163人 (20.7%)	㉗79人 (10.1%)	242
合計	316人	470人	786

① 普段の外出頻度

身体属性別外出頻度を表5で示した。その割合を見ると「㉔と㉕」の介護認定を受けている層の外出頻度が低い結果となった。

表5 身体属性別外出頻度

	週3日以上	週1~2日程度	月2~3日程度	月1日程度	それ以下	合計
㉔	51 34.7%	51 34.7%	24 16.3%	13 8.8%	8 5.4%	147
㉕	109 29.1%	138 36.6%	60 16.0%	25 6.7%	42 11.2%	374
㉖	97 60.6%	41 25.6%	20 12.5%	1 0.6%	1 0.6%	160
㉗	37 50.0%	20 27.0%	7 9.5%	4 5.4%	6 8.1%	74
合計	294	250	111	43	57	755

次に、高齢者の属性別(障害手帳や介護認定の有無)にも一人当たりの平均外出頻度を求めた。その結果、㉔層が0.21、㉕層が0.19、㉖層が0.31、㉗層が0.26で、介護認定を受けている人が高齢者全体の平均外出頻度(0.23回/日)より低い結果となった。平均値の差の検定を行った結果、障害手帳の有無による有意な差は見られなかったが、障害手帳の有無にかかわらず介護認定の有無によって平均外出頻度に1%有意の差があった。

② 外出の広がり

身体属性別の外出の広がりを明らかにするため本研究では目的別平均外出頻度を用いて分析を行った。その結果、身体属性別に目的別外出頻度が異なっており、特に介護認定の有無が影響していることがわかった。

障害手帳を持っている㉔と㉖の平均外出頻度のちがいを示したものが図6である。

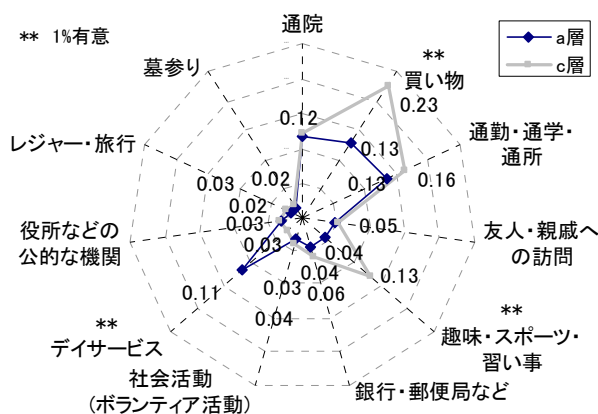


図6 ㉔と㉖層の目的別平均外出頻度 (単位: 回/日)

その結果、「デイサービス」以外の外出目的は介護認定を持っている㉔層が介護認定を持っていない㉖層より低い外出頻度になった。特に「買い物」と「趣味・スポーツ・習い事」の目的では大きなちがいが見られた。

次に障害手帳を持っていない㉕と㉗を比較したのが図7である。ここでも「デイサービス」以外の外出目的は介護認定を持っている㉕層が介護認定を持っていない㉗層より全体的に低い外出頻度になった。

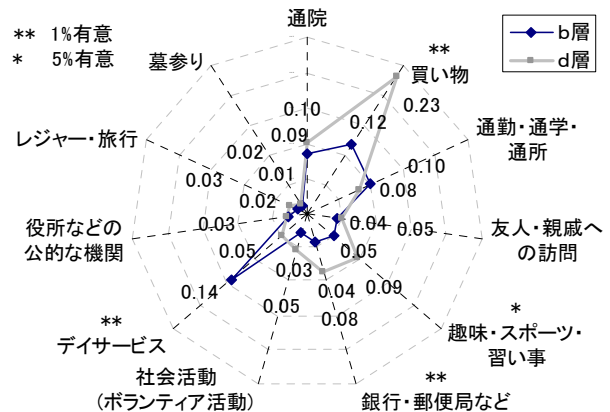


図7 ㉕と㉗層の目的別平均外出頻度 (単位: 回/日)

以上の分析から介護認定を受けている人の外出の広がりが狭いことが分かった。また、介護認定を受けている人と受けていない人の平均外出頻度が「買い物」、「趣味・スポーツ・習い事」、「銀行・郵便局など」、「デイサービス」の外出目的でちがいが見られた。両者の平均値の差の検定の結果は図6と図7に示したとおりである。

(5) 介護度別外出実態と外出の広がり

① 普段の外出頻度

高齢者は介護認定の受けている人の外出頻度が低いことが分かった。そこで介護認定を受けている人の中で介護度別に外出頻度がどのような違いがあるかを分析した。その結果が図8であり、独立性の検定で5%の有意な違いがみられた。

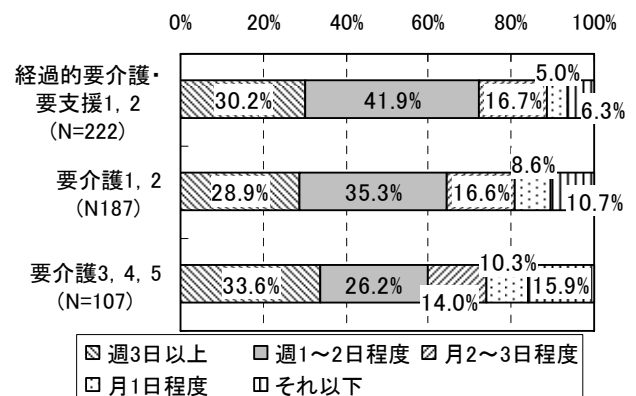


図8 高齢者の介護度別外出頻度

「要介護度 3, 4, 5」の外出頻度で「週 1 日以上」が 59.8%であるが、その外出目的を見ると「通院・リハビリ」、「デイサービス」が7割以上を占めた。

② 外出の広がり

目的別平均外出頻度の分析の結果を図9で示す。介護度が高い層より外出頻度が低かった。外出目的別の分析では「デイサービス」、「通勤・通学・通所」以外の目的で介護度が高い層より平均外出頻度が低い結果を示した。特に「通院・リハビリ」、「買い物」、「趣味・スポーツ・習い事」の外出目的で大きく減少する傾向が見られた。

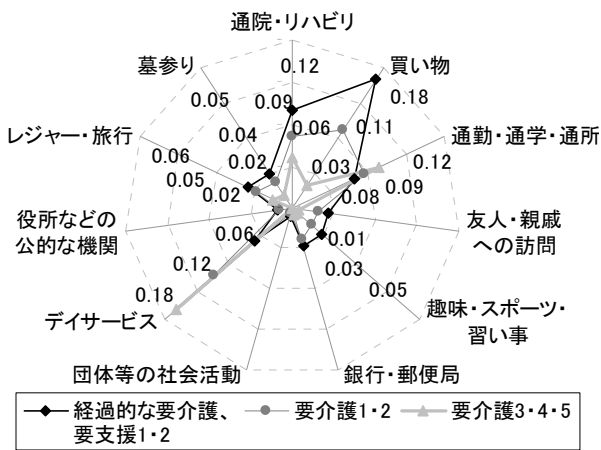


図9 介護度別の目的別平均外出頻度(単位：回/日)

次に、介護度と年齢層のどちらがより外出の広がりを規定しているかを分析したい。

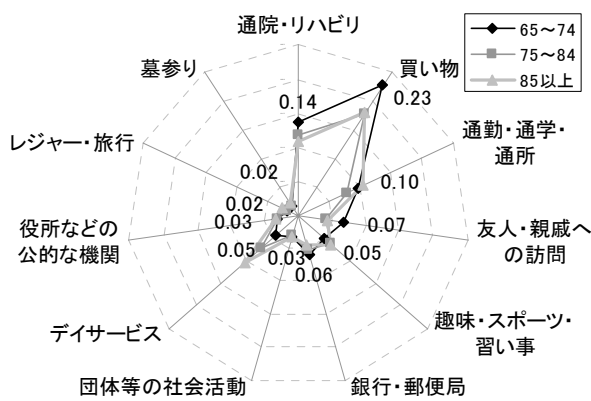


図10 「経過的な要介護、要支援1・2」の年齢別外出の広がり(単位：回/日)

その結果、同じ介護度の層であれば年齢に関係なく外出の広がりがほぼ同じであるが(図10)、同じ年齢層であっても介護度が高ければ、外出の広がりが狭かった(図11)。以上の結果から、高齢者の外出には年齢よりも介護度の方が影響を与えていることが分かり、介護度が高い層に対してS T Sを特に供給する必要があると考えられる。

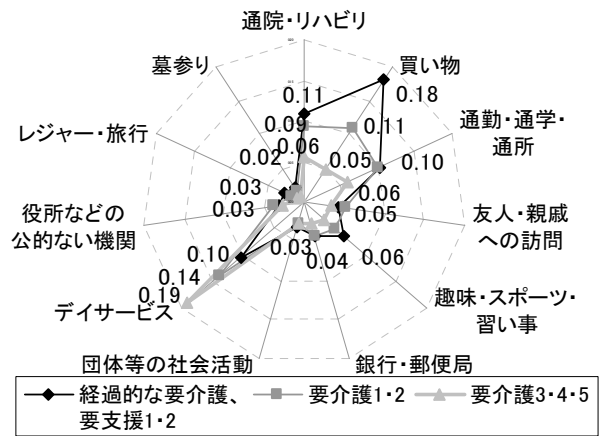


図11 「85歳以上」の介護度別外出の広がり(単位：回/日)

4. まとめ

本研究の目的は、移動制約者の中でも、特に高齢者の身体属性別に外出の広がりがどう異なっているかを明らかにすることであった。また、そのうち最も外出ができていない層を明らかにし、S T Sの提供が必要となる層を明らかにすることであった。その結果、以下のような結果が得られた。

第一に、年齢と介護度により外出頻度や外出の広がりが異なっていることが分かった。加齢や介護度の高まりにより、高齢者の外出を制約されることが分かった。第二に、身体属性によっても外出頻度や目的が異なっているのが明らかになり、障害手帳の有無にかかわらず介護認定を受けているか否かにより外出頻度が異なっていることが分かった。特に積極的な外出である「趣味・スポーツ・習い事」で有意なちがいがみられた。第三に、今回の分析では高齢者の外出に最も影響を与えているのが介護度であることが分かった。

本研究では、以上より、高齢者の身体属性が外出の広がりにどういった関連があるかを明らかにすることができた。また、外出の広がりが狭い層も分かり、S T Sをより必要とする層が明らかになった。

こうした人々がより広い外出ができるように支援方を構築することが重要であると考えられる。

参考文献

1) 中村陽子・新田保次・猪井博登・谷内久美子・宮崎隆久：質問票による身体障害者の移送サービスの利用判定方法に関する研究、土木計画学研究・講演集 Vol.31、CD-ROM、2005、6